

みずほマーケット・トピック(2025 年 12 月 5 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

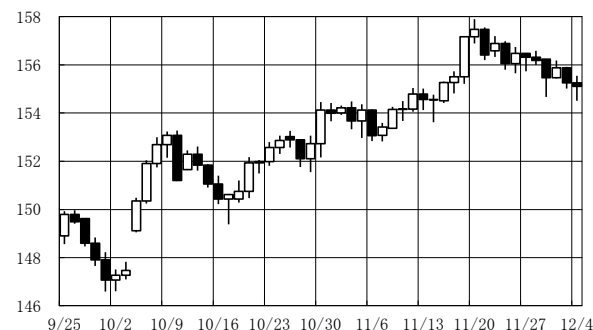
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

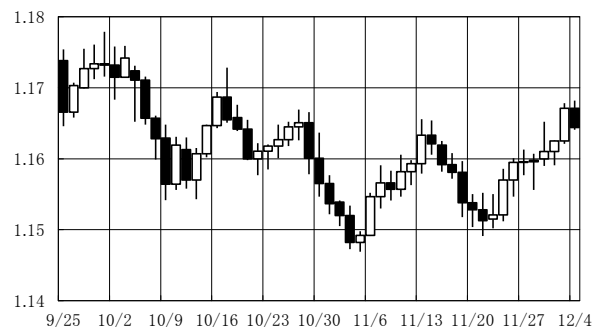
- 今週のドル/円は、155円前半を中心にレンジ推移した。週初1日、155.91円でオープンしたドル/円は植田日銀総裁の発言を受けて、利上げ期待の高まりから円買い優勢となり、155円台半ばへ下落した。海外時間は、円買いの流れが続く中で一時155円を割り込んだが、その後は米金利上昇が支えとなり155円台半ばに値を戻した。2日、ドル/円は円買いが一服し、155円台後半に続伸。海外時間は、本邦金利上昇一服を受けて円売りが続いて156円台に乗せるも、米金利低下が重しとなり再び156円を割り込んで引けた。3日、ドル/円は円金利上昇を受け155円台半ばへ下押し。海外時間は、米11月ADP雇用統計の弱めの結果や米金利低下が嫌気され、一時155円ちょうど付近まで続落した。4日、ドル/円は日本株高などが支えとなり155円台半ばまで上昇後、155円台前半で小動き。海外時間は、観測報道を受けた日銀による利上げ期待の高まりから円買いが加速し、一時週安値となる154.51円まで下落した。その後は、米新規失業保険申請件数の良好な結果などが支援材料となって、155円台を回復して引けた。本日のドル/円は、引き続き155円台前半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、週半ば以降に上昇した。週初1日、1.1602でオープンしたユーロ/ドルは独金利上昇やドル売り相場が支えとなり、一時1.16台半ばに上昇。その後は、米金利上昇が重しとなり1.16台前半へ上値を切り下げた。2日、ユーロ/ドルは新規材料に欠ける中で、1.1610付近でのレンジ推移に終始した。3日、ユーロ/ドルは米金利低下や米経済指標の冴えない結果が好感され、1.16台後半に上昇した。4日、ユーロ/ドルはドル安相場が支えとなり一時週高値となる1.1682に上昇する時間帯もあったが、堅調な米経済指標を受けた米金利上昇が重しになる中で、1.16台半ばに反落した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.16台半ばで取引されている。

		前週末	今 週				
		11/28(Fri)	12/1(Mon)	12/2(Tue)	12/3(Wed)	12/4(Thu)	
ドル/円	東京9:00	156.26	155.91	155.56	155.77	155.09	
	High	156.58	156.21	156.18	155.99	155.54	
	Low	155.98	154.67	155.45	155.01	154.51	
	NY 17:00	156.19	155.51	155.89	155.22	155.12	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1601	1.1602	1.1607	1.1628	1.1667	
	High	1.1607	1.1653	1.1626	1.1677	1.1682	
	Low	1.1563	1.1589	1.1592	1.1624	1.1642	
	NY 17:00	1.1600	1.1610	1.1626	1.1671	1.1645	
ユーロ/円	東京9:00	181.20	180.75	180.51	181.10	180.89	
	High	181.51	181.12	181.35	181.43	181.28	
	Low	180.53	180.17	180.50	180.80	180.43	
	NY 17:00	181.14	180.50	181.16	181.07	180.61	
日経平均株価		50,253.91	49,303.28	49,303.45	49,864.68	51,028.42	
TOPIX		3,378.44	3,338.33	3,341.06	3,334.32	3,398.21	
NYダウ工業株30種平均		47,716.42	47,289.33	47,474.46	47,882.90	47,850.94	
NASDAQ		23,365.69	23,275.92	23,413.67	23,454.09	23,505.14	
日本10年債		1.80%	1.87%	1.85%	1.89%	1.93%	
米国10年債		4.02%	4.09%	4.09%	4.06%	4.10%	
原油価格(WTI)		58.55	59.32	58.64	58.95	59.67	
金(NY)		4,254.90	4,274.80	4,220.80	4,232.50	4,243.00	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、9日(火)～10日(水)にFOMCが開催される。前回10月FOMCは、2会合連続で▲25bpの利下げを決定したが、据え置きと▲50bp利下げの反対票も見られるなどメンバー間におけるスタンスの差異が目立った。11月19日に公表された同会合の議事要旨を確認すると、多くの当局者が12月利下げに否定的な見方を示していたこと、幾人かは10月会合での利下げでさえ反対の立場を示していたことなどが明らかになり、タカ派色が強い中身が注目を集めた。もっとも、複数のFRB高官によるハト派的な情報発信なども相まって、本稿執筆時点の金融市場は12月の利下げに関し、ほぼ100%織り込んでいる。なお、今回会合は経済物価見通し(SEP)およびドットチャートも更新される。前回9月時点では、例えば2026年の利下げは中央値で僅か1回と想定されていた。一方で市場は2～3回の利下げを見込んでおり、かなり乖離が目立つ。「新体制でのハト派期待」を反映した利下げ織り込みという側面もあるだろうが、現状の金融経済情勢を踏まえる限り、この賭けには危うさもあるだろう。
- 本邦では、8日(月)に7～9月期GDP(確報)が公表予定だ。速報値は前期比で▲0.4%、前期比年率で▲1.8%となり、6四半期ぶりのマイナス成長に沈んだ。一部の識者はこの結果をもって財政拡張の必要性をしきりに訴えるが、7～9月期の軟調な成長率は技術的要因が大きく影響している。法改正に伴う駆け込み着工の反動減で、住宅投資は▲0.3%ポイント(前期比%、寄与度、以下同様)の大幅減となっている。翻って、家計最終消費支出は+0.1%ポイントとプラス成長を維持している。インフレで可処分所得が削られつつも、内需の要である個人消費に腰折れ感の確認されていない。ブルームバーグの事前予想では、7～9月期の結果(確報)に関し前期比で▲0.5%、前期比年率で▲2.0%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
12月5日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 10月家計支出 10月景気動向指数(速報) 	<ul style="list-style-type: none"> 独10月製造業受注 米9月個人所得/支出 米9月個人消費/支出デフレーター 米12月シガン大学消費者マインド(速報)
8日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 10月毎月勤労統計 7～9月期GDP(確報) 10月国際収支 11月景気ウォッチャー調査 	<ul style="list-style-type: none"> 独10月鉱工業生産 ユーロ圏12月センチックス投資家信頼感
9日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 11月工作機械受注(速報) 	<ul style="list-style-type: none"> 独10月貿易収支 米10月JOLT求人件数 米FOMC(10日まで)
10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 11月国内企業物価指数 	<ul style="list-style-type: none"> 米10～12月期雇用コスト指数 米パウエルFRB議長会見
11日(木)	—————	<ul style="list-style-type: none"> 米9月貿易収支
12日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 10月設備稼働率 10月鉱工業生産(速報) 	<ul style="list-style-type: none"> 独11月消費者物価指数(確報) 独11月経常収支

【当面の主要行事日程(2025年12月～)】

FOMC(12月9～10日、1月27～28日、3月17～18日)

ECB政策理事会(12月18日、2月5日、3月19日)

日銀金融政策決定会合(12月18～19日、1月22～23日、3月18～19日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年12月4日	フリーフォールのドイツ経済が意味するもの
2025年12月3日	「ドル離れ」の真相～結局、どうだったのか？～
2025年12月2日	円安修正に必要な実質金利差の縮小とは？
2025年12月1日	2026年も「ドル安下での円安」になるのか？
2025年11月28日	週末版(ちょうど良過ぎるECBの立ち位置～「中立金利でインフレ+2%」という理想～)
2025年11月25日	決して遠くはないユーロ/円200円台
2025年11月21日	週末版
2025年11月20日	ドル安でもドル高でも円安だった2025年
2025年11月19日	ワンボイス化すべき金利・為替の方向感
2025年11月18日	インバウンド消費と利上げの先行きについて
2025年11月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年10月分)
	サナ活の功罪～世論がインフレを乗り越える時～
2025年11月14日	週末版(戻らぬ「家計の円売り」～新NISA2年目、失速の背景～)
2025年11月12日	円の需給環境～25年度上期国際収支を受けて～
2025年11月11日	リフレ政策を巡る「本音」と「建前」の読み筋
2025年11月10日	欧州で感じた日本エンタメ・コンテンツの威力
2025年11月7日	週末版
2025年10月31日	週末版
2025年10月28日	日米首脳会談の見どころ～防衛費と円安～
2025年10月27日	下落に転じた円の実効相場～「米国と一蓮托生」の弱み～
2025年10月24日	週末版
2025年10月23日	世界の為替市場の現在地～BIS調査を受けて～
2025年10月22日	高市政権発足を受けて～粘着的なリフレ期待～
2025年10月20日	自民・維新連立政権～しぶとい円安・円金利上昇～
2025年10月17日	週末版
2025年10月16日	2025年、サービス赤字はまだ決壊せず
2025年10月15日	スピードアップするデカップリング～トランプ関税分析～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年9月分)
2025年10月14日	「貧すれば多党化」～欧州化する日本政治～
2025年10月10日	週末版
2025年10月9日	フランスリスクはユーロリスクに発展するか？
2025年10月8日	利上げを助ける高市トレード
2025年10月7日	史上最高値を更新したユーロ/円相場
2025年10月6日	高市政権誕生と今後の論点整理
2025年10月3日	週末版(外貨準備構成通貨の近況について(2025年6月末時点))
2025年10月2日	25年度上半期レビュー～主役の欧州通貨、悲惨な円～
2025年10月1日	いよいよ終焉を迎える「現預金50%」時代
2025年9月26日	週末版
2025年9月24日	ユーロの基軸通貨性を再考する～global euro～
2025年9月22日	日銀金融政策決定会合～10月利上げは堅いのか？～
2025年9月19日	週末版
2025年9月18日	FOMCを終えて～可視化される独立性毀損～
2025年9月17日	日銀金融政策決定会合レビュー～自動車、読めず～
2025年9月16日	日米財務大臣共同声明の読み方～2つの論点～
2025年9月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年8月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～基本は現状維持、利上げの機を窺う～)
2025年9月11日	警戒すべき「貰い事故」～海外からの財政リスク相場～
2025年9月10日	円相場の需給環境について～頭打ちとなるヒト関連～
2025年9月9日	誰が首相になっても「変わらぬ3つの論点」
2025年9月8日	続・対米投資5500億ドル合意の現在地
2025年9月5日	週末版
2025年9月4日	遂に「利上げ再開」の兆しも出始めたECB
2025年9月3日	対米投資5500億ドル合意の現在地
2025年8月28日	週末版
2025年8月27日	円金利上昇の背景はどこに～円安終わらず～
2025年8月25日	ジャクソンホール経済シンポジウムの読み方
2025年8月22日	週末版(「ユーロ圏の「人手不足」はどうなったのか？～「需要不足」への問題意識は高止まり～)
2025年8月20日	4～6月期、「米国離れ」の真相～TICデータ～
2025年8月19日	上半期の円の需給環境について～改善傾向～
2025年8月18日	欧州の外交成果が垣間見えた米露首脳会談
2025年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年7月分)
	週末版(「家計部門の投資意欲」に腰折れ懸念～「海外→国内」のローテーションはあるか？～)
2025年8月14日	ニクソン・トランプ比較論～争点は「覇権国の管理コスト」～
2025年8月13日	ニクソン・トランプ比較論～恐れるべき結末～
2025年8月12日	過剰反応すべきではないFRB人事の影響力
2025年8月8日	週末版
2025年8月5日	米EU交渉の評価～妥協か、英断か～
2025年8月4日	遂に現れた関税の影響～雇用統計の読み方～
2025年8月1日	週末版(日銀会合を終えて～霧は完全に晴れずも10月利上げが視野に～)
2025年7月31日	FOMCを終えて～年末以降、非常に厄介な状況に～
2025年7月29日	「米国離れ」の検証～5月は過去最大の資本流入～
2025年7月28日	対米投資利益の解釈～「90%取られる」の意味～
2025年7月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月から状況変わらず～)
2025年7月23日	日米関税交渉の合意について～日銀への影響あり～
2025年7月22日	参院選を終えて～現状と展望の整理～
2025年7月18日	週末版(日銀レビュー～「前門の国内政治、後門の米国政治」～)
2025年7月16日	日本版トラスショック再考～脆弱性は否めず～
2025年7月15日	日本版トラスショック再考～現実味を考える～
2025年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年6月分)
	日本政治の現状と展望～日本売りの材料になる政治～
2025年7月11日	週末版
2025年7月10日	追い詰められているのは米国も一緒～TACOの前提～
2025年7月9日	関税の緩衝材となる円安～日銀の判断は～
2025年7月8日	膠着する家計の投資意欲とその今後
2025年7月7日	物価高対策を巡る不可思議～王道は利上げ～
2025年7月4日	週末版
2025年7月3日	今、考えるユーロ/ドル相場の高値目途
2025年7月2日	インフレ適応が続く家計、諦観強まる若年世代
2025年7月1日	25年上期レビュー～「欧州の強さ」と「円の弱さ」～
2025年6月27日	週末版
2025年6月26日	NATO首脳会議～動き出した欧州の戦略的自律～
2025年6月25日	「米国離れ」は本当なのか～4月に起きていたこと～
2025年6月24日	衰えないスイスフラン～欧州資産へのローテーション～